

【主題】 野菜の栽培を通して

【副題】 ～野菜の成長と子どもの変化～

【校・園名】 認定こども園 長岡和光幼稚園 なごみ保育園

【職名 校・園長名または若手教職員名】 大浦風歌 横尾美咲 佐藤美空

はじめに

今年度らっこ組では、野菜を栽培する活動に焦点を当てて取り組んできた。進級当初、野菜嫌いな子どもが多く、食べることを拒否したり、自分で食べ進めることができずに最後まで野菜が残ってしまったりという様子が見られた。声掛けや直接的な援助だけでは、子どもの苦手克服には繋がらず、何か方法はないかと担任間で話し合いを行ってきた。らっこ組は保育室からベランダに出ることができたり、窓から外の様子が見ることができたりする環境が揃っていることに気が付き、何か取り組みができるのではないかと考えた。そこで、以上児が育てるイメージだった野菜を、2歳児という年齢でも育てることで、子どもの中で少しでも野菜への苦手意識が減り、興味関心の広がりにつながるのではないかと思い、この研究テーマに取り組むことにした。



春の給食残食状況

内容・方法

〈実践1：野菜について知る〉

まずは野菜についての名前や育て方を知るために、野菜に関する紙芝居や絵カードを用意した。紙芝居を読み聞かせすると、「トマトだ!」「玉ねぎもある」と、自分の知っている野菜の名前をつぶやいていた。次に絵カードを用いて、野菜の断面から何の野菜か当てるクイズを行った。色や形に特徴がある野菜に関しては、子どもたちから答える姿が見られ、クイズ形式ということもあり楽しみながら取り組む様子が伺えた。答えられなかった野菜に関しても、「キャベツか〜」と納得するような姿もあった。



野菜の紙芝居を聞く子どもたち

〈実践2：苗植え（5月18日）〉

子どもたちが野菜について知ることができたため、次は苗植えを行うことにした。苗に関しては、ミニトマトは馴染みのある赤ではなく黄色とオレンジの品種にしたり、実のなり方が特徴的なオクラ、土の中のできるにんじん、子どもが一番苦手とするピーマンなど、季節的なもの・育てやすいもの等も考慮したりしながら、「ミニトマト」「オクラ」「にんじん」「ピーマン」を購入することにした。プランターを準備する段階で、保育室の窓から子どもたちが観察し、「なにしているの?」と興味を示していた。準備した後に、子どもたちにこれから行っていく活動について話すと、「えー!」「やってみたい!」と意欲的な声が上がった。

続いて、苗植えを行った。苗植えは座席のグループごとに行い、グループとして共同的に行う活動はこれが初めてであった。

《順序》

- ① 土を耕し、苗を植えるスペースを作る



② 苗を植え、土をかける



③ 苗の区別がつくよう、野菜の写真を土に刺す



④ 水やりをする



水やり当番を行い始めたことで、あまり関心がなかった子どもも、自由遊びの際に窓に行き様子を見たり、水やりの際に苗を見たりと、少しずつ関心が高まっていた。

水やりなど世話の際には、保育者から、葉が出てきたことや、つぼみがついてきたことなど、子どもたちに問いかけたり声掛けをしたりしてきた。毎日観察をしていると、花が咲いたり、葉の枚数が増えたり、苗の背が伸びたり様々な変化が出てくることに子どもたちからの気付きの声上がる。「大きくなってきたね!」「お花が咲いた!」と、成長を喜んでいて、目に見えて変化が出てきたことで、より一層世話への意欲が高まっていた。



観察の様子



水やり当番の様子

<実践3：世話・水やり当番（5月19日～）>

苗植えの翌日、家庭で野菜を育てた経験のあるSちゃんから「水やりしたい!」との声が上がったため、保育者と一緒に水やりを行った。その様子を見て、興味が湧いた子どもたちも続々と集まって順番に水やりをしていた。その日以降、水やりをしたい子どもが増えてきたので、グループごとに当番制で水やり当番を行うことにした。進級入園から2カ月ほどたっていたこともあり、この機会に席替えを行い、また、グループ名を野菜にしたことでより野菜の名前が身近に感じている様子であった。また、自分の番がいつ来るのか視覚的にわかるように、子どもたちにも野菜の絵に色を塗ってもらい、当番表を制作した。当番表を制作したことで、自分の番を楽しみに待っている様子が伺えた。

世話を続けていくと更に野菜が実っていくことに気が付く。「もう食べられるの?」「緑色だね」「ちっちゃいから赤ちゃんなのかな?」と、子どもたちなりに考えたり、観察し特徴について話をしたりする姿が見られた。

<実践3：収穫(6月22日～)>

6月22日、初めて収穫できたのはピーマンであった。保育者が収穫したピーマンを子どもたちに見せて回った。匂いや色、手触りなどを子どもたちに感じてもらえるよう、実際に手に取ってもらったり、臭

いを嗅いでみてもらったりした。

「ピーマンの匂いがする」「中にいっぱいつぶつぶが入ってる」等、実際に手に取ってみることで新たな発見があり、子どもたち自身で気が付けることがたくさんあった。1人の声から、他児にも発見や感動が広がっていく。

7月に入ると、ミニトマトにオクラ、ニンジンなど次々と収穫することができた。野菜がどんどん実っていくことで、収穫できる喜びを大いに感じていた様子であった。収穫ができるようになると、子どもたちの野菜への関心がさらに高まっていく。

収穫したオクラを子どもたちの前で半分に切り、断面を見せると星の形をしていることに気付いた。七夕が近かったため、子どもたちが採ったオクラを用いて野菜スタンプを行うことにした。制作中も「星の形だ〜」や「ぬるぬるしてるよ」など野菜の特徴にも気付くことができた。



また、5歳児くじら組も園庭で野菜を育てており、園庭に出た際に子どもたちが、「くじらさんのお野菜だ」「らっこさんと一緒だね」と、他クラスの野菜を観察し、興味を示していた。



ミニトマトの収穫



ピーマンの匂いを嗅ぐ様子



断面を観察する様子



年長児の野菜を観察する様子

<実践4：収穫した野菜を食べる(6月22日〜)>



収穫した野菜はその都度給食室に調理をお願いし、給食時に提供してもらった。収穫したら食べることを事前に話していたので、みんなで作った野菜だということ子どもたちに伝えると、野菜好きな子どもは「食べたい!」と興味を示し、何度もおかわりをしていた。野菜が苦手な子どもは、最初は抵抗感があったようだったが、保育者がらっこ組のみなんで育てた野菜だよ!食べてみる?と声をかけると、挑戦しようとする子もいた。食べてみた感想を聞くと、「美味しい」との声があり、以前よりも苦手意識が減ってきたように感じる場面であった。

以前は給食で出た野菜を残してしまう子どもが多かったが、野菜を収穫できるようになると、苦手ながらも食べ進めようと頑張ったり、完食出来る子が少しずつ増えてきた。

また、「これはにんじん?」「きゅうりが入ってた!」と、食材への興味の高まりからか、給食に入っている野菜等を気にする姿も増えた。



収穫した野菜を使った料理



<実践5：作品展>

2 学期に入り作品展の準備を進めるにあたって、テーマをクラスで考えた。野菜を育てたことで、食材への興味が出たことや、おままごとが好きな子どもが多いことから、「レストラン」をテーマにすることに決定した。個人制作では、各々作りたい食べ物を決めて制作に取り組んできた。肉じゃが・ケーキ・オムライスなど、様々な食べ物が揃った。シチューを制作することにしたYくんは、保育者が何から作る？と問いかけをすると、「ん〜シチューには、ブロッコリーとニンジンと、ジャガイモが入ってるから、作りたい」と話していた。他の子からも、その料理に入っている食材を思い返し、意識しながら制作に取り組む姿が多く見られた。好きな食べ物の制作ということもあり、多くの子が意欲的に活動に参加していた。共同制作ではハンバーガーやピザ、ドリンクバーなどを制作した。作品展が終わってからも熱が冷めることなく、作ったものを使用してごっこ遊びをし、遊びにも広がりを見せていた。



個人制作の様子

作品展当日



共同制作作品「ハンバーガー」
ドリンクバーで遊ぶ姿

<実践6：お遊戯会の合唱>

お遊戯会の合唱では、普段から子どもたちが気に入って口ずさんでいた、「やさいのうた」を歌うことにした。野菜の特徴についての身振り手振りを加えながら、練習の時から親しみを持って歌っていた。

歌詞の確認をしている際に、Rくんが「らっこさんでも育てたよね!」と話しており、それを聞いたIちゃんが「そうだよ! ピーマングループだったしね!」と思い出しながら話す姿があった。子どもたちの中で対話しながら活動の繋がりを感じているようであった。



<まとめ>

自分たちで野菜を育てたことから苦手意識が減り、野菜を食べられる子が増えた。そのためクラスの全体的な残飯の量も少なくなった。また、給食中に自分で育てた食材の名前を言いながら食べたり、グループの仲間で「美味しいね。」と会話し収穫できた喜びを感じたりすることができた。この年代でも野菜のお世話から収穫まで成長過程を間近で見守ることで日々の成長を喜んだり食べることへの意欲につながったりした。

野菜を栽培する活動は、主に年長児が行うイメージであったが小さいうちから経験することで様々な成長や変化が見られることが分かった。